カンピロバクター腸炎

カンピロバクター腸炎とは

細菌性の食中毒の原因としては最も多いものです。ウイルス性の食中毒を含めてもノロウイルスに次いで２番目に多くなっています。ふだんは鶏や牛などの腸に住み、食品や飲料水を通して感染します。生の鶏肉(鳥レバー、ささみ、タタキなど)や牛肉が感染源となることが多く、井戸水やわき水などから見つかった例もあります。また、犬や猫などのペット、ネズミなども保菌しているため、これらから感染することもあります。人から人へ直接感染することは比較的少ないようです。小児の下痢症の原因としても最も多い細菌です。

どんな症状か

潜伏期間は、２～７日です（平均５日)。
発熱、腹痛、水様あるいは粘液状の下痢があり、20～25%の人に血便があります。
血便がある割には一般状態は良好です。また嘔吐も時にみられます。

注意すること

血便があった場合には、病原性大腸菌Ｏ－１５７やその他の菌による腸炎との鑑別が必要です。早めに便の培養検査をすることが大切です。また、急性虫垂炎や腸重積症、血管性紫斑病などとの鑑別が必要となることもあります。
感染から数週間後に手足の麻痺を起こす急性多発性神経炎(ギラン・バレー症候群)などを発症することがあります。

治療は

通常数日～１０日で治りますから、必ずしも抗生物質の投与の必要はありません。しかし、高熱や激しい腹痛、頻回の粘血便のあるような場合、また、集団生活をしている小児、食品取扱者などの場合には、抗生物質の投与をしたほうが良いでしょう。
また、病原性大腸菌Ｏ－１５７などの他の菌による腸炎も考慮に入れた治療をしなければいけません。血便があった場合には早めに病院を受診しましょう。
下痢についての注意は他の下痢症の場合と同じです。